保存版

電気安全パンフレット

1. 電気器具は正しく使いましょう。
2. 電気工事は工事店に依頼しましょう。
3. アースと漏電遮断器が漏電・感電事故を防ぐ基本です。
4. 電気の安全装置が電気事故を防ぎます。
5. 停電!!電気が消えたら。
6. 地震対策は万全ですか?身の回りの電気安全。
7. 点検してみましょう、ご家庭の電気安全。

お客さま電気設備の安全チェックにお伺いしています。

私たちがお伺いする定期調査は、4年に1度実施します。

定期調査は、法令に基づいたもので、お客さまに安心して電気をお使いいただくために定期的にお伺いしています。今回の定期調査は、東京電力パワーグリッドが〔登録調査機関(裏表紙)〕に委託して実施しています。お伺いする調査員は身分証明書を携帯しています。

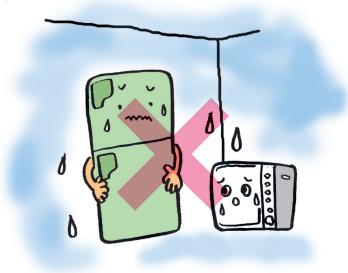
(2020年6月版)

1 電気器具は正しく使いましょう。

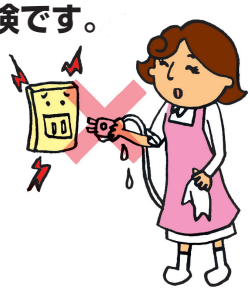
電気器具には、「取扱説明書」が付いています。よく読んで電気器具を使いましょう。また、次のようなことにも注意しましょう。

① 電気器具は水や湿気がにがてです。

屋内用の器具を屋外や、水気のある場所で使わないようにしましょう。器具が故障しやすくなり、漏電の原因にもなります。



② ぬれた手で電気器具を扱うのはやめましょう。感電しやすく危険です。



③ コードやプラグはていねいに扱いましょう。

コードがいたんだり、プラグの“刃”が曲がり、断線や過熱の原因となります。

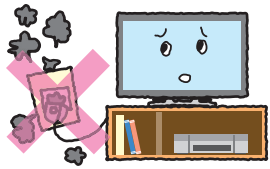
④ タコ足配線はやめましょう。

コードやコンセントは、使用できる電気の量に制限があります。これをこえて使用しますとコードが過熱して火災の原因となることがあり危険です。

使用できる電気の量をコンセントの表示で確認しましょう。

⑤ コンセントやプラグはときどき点検しましょう。

プラグは差し込んだままにしますと、チリやホコリがたまってしまいます。そこに湿気が加わると漏電や火災の原因となることがありますので、ときどき乾燥した布などできれいにしましょう。



ミニ知識

ご家庭の壁などに取り付けられている1口のコンセントで、使用できる電気の量は1,500ワット（15アンペア）までです。

ワンポイントアドバイス

家具のうしろのプラグや、冷蔵庫、洗濯機などのプラグは、常時差し込んであるため、チリやホコリがたまりやすくなっています。ときどき点検してみましょう。

2 電気工事は工事店に依頼しましょう。

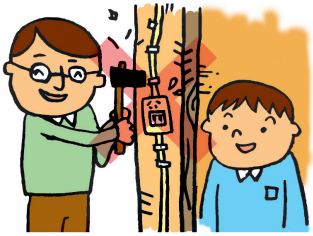
電気の配線工事は、専門知識と技術をもった「電気工事士」の資格が必要です。（ただし、ヒューズの交換やコードコネクタへのコードの接続などは、資格がない人でもできます。）

①エアコン等の大型電気器具については、専用の回路から使いましょう。

大型電気器具の購入にあたっては、あらかじめ、電気工事が必要かどうか販売店などに確認しましょう。

② コードを固定して使用することはできません。

コードは、“くぎ”や“ステープル”などで固定したり、タンスなどの下敷きにしますと、断線や過熱の原因となり危険です。



3 アースと漏電遮断器が漏電・感電事故を防ぐ基本です。

①漏電とは

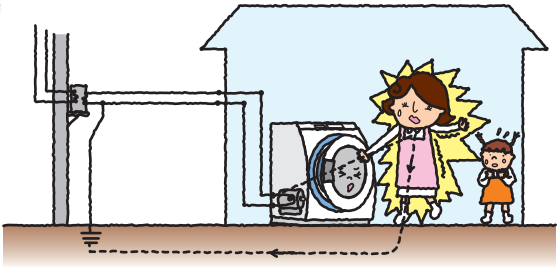
屋内配線や電気器具は、電気が漏れないよう"絶縁"されています。しかし、絶縁物が古くなったり、傷ついたり、水をかぶったりすると、電気が漏れ、「漏電」が起こります。漏電でとくに気をつけたいのが水を使う器具です。漏電は、感電や火災の原因にもなるので十分注意して下さい。

②感電とは

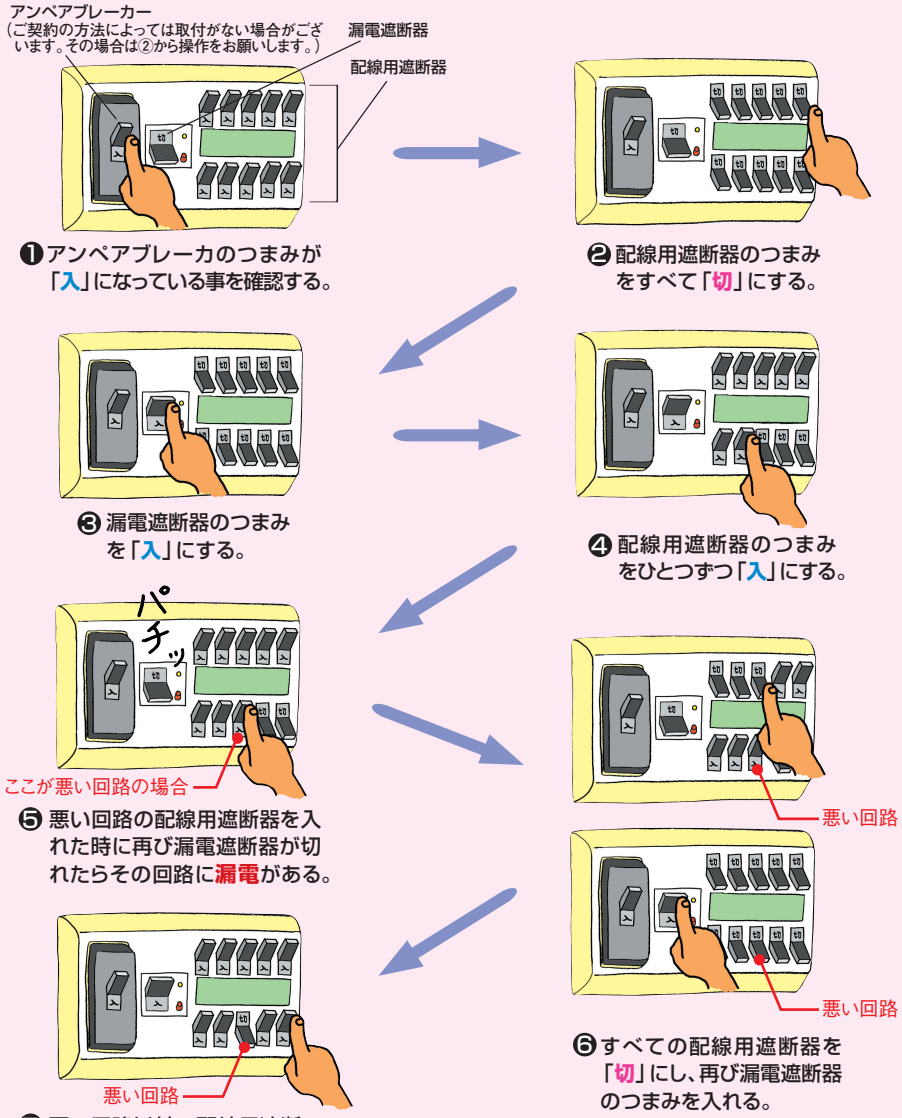
漏電している器具に触れてしまうと、電気はその人の体を通り大地に流れていきます。これが「感電」です。その程度が弱いときはショックだけですみますが、強い電流が流れた場合は人命にかかわることもあります。

ワンポイントアドバイス

家の周りに施設されている配線も、絶縁物が古くなっていると、感電する恐れがあります。
塀や屋根の上にのぼって手を伸ばし触れないようにしましょう。



ミニ知識 漏電遮断器が切れてしまったら（動作したら）



❶アンペアブレーカのつまみが「入」になっている事を確認する。

❷配線用遮断器のつまみをすべて「切」にする。

❸漏電遮断器のつまみを「入」にする。

❹配線用遮断器のつまみをひとつずつ「入」にする。

❺悪い回路の配線用遮断器を入れた時に再び漏電遮断器が切れたらその回路に**漏電**がある。

❻すべての配線用遮断器を「切」にし、再び漏電遮断器のつまみを入れる。

❼悪い回路以外の配線用遮断器をひとつずつ「入」にする。

※イラストの分電盤スイッチの配置は一例です。

悪い回路（漏電）は至急電気工事店に点検を依頼して下さい。また、電気工事店がわからない時、又は、ご自分での復旧処理が不安な場合はお近くの東京電力パワーグリッド（裏表紙）までご連絡下さい。